

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校連絡会 情報共有シート

1. 基本情報

構想名	日露間における新価値創造人材の育成
大学名	東北大学
担当部署	国際交流課連携推進係
コンタクト先	kokusai-r@grn.tohoku.ac.jp

※コンタクト先は、本情報共有シート等において記載された内容等に係る情報交換・問い合わせ等のため、採択大学間で連絡を取り合う際のコンタクト先（メール、TEL等）を記載ください。

2. プロジェクト概要

貴学が取り組まれているプロジェクトの概要についてご記入ください。

<p>グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し、全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材を育成する目的で、本学と関係が深いロシアの特別大学である「モスクワ国立大学」及び「ノボシビルスク国立大学+ロシア科学アカデミーシベリア支部」、「極東連邦大学+ロシア科学アカデミー極東支部」を交流組織として、①学部1・2年生を対象とした、相互の異文化を理解する短期学生交流、②学部3・4年生および博士課程前期学生を対象とした、単位取得を伴うプレ留学交流、③博士課程前期および後期学生を対象とした、日露で実施している高いレベルの共同研究を基盤とした大学院生の教育研究交流を実施し、これまで教育を中心としてきたロシアの大学、研究を中心としてきたロシア科学アカデミー、研究第一、門戸開放、実学尊重をモットーとしてきた本学が三位一体となって段階的教育交流モデルを構築する。</p>

3. プロジェクトへの取組状況

下記5点を中心に貴学の取組状況をご記入ください。

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	5年制教育や学位授与に関する最高資格審査委員会の存在などロシア独特の教育システムに加え、学年歴の違い、大学の国際化の出遅れその他、ロシア側大学との連携上の課題は少なくない。本学ではコンタクトパーソンとの連携を強化し、絶えず共通認識を持つよう心がけている。また、ロシアの大学と科学アカデミーによる協力関係に着目しロシア側で相互補完関係を構築してもらうなど、大学単体では対応しきれない問題も研究所との分担で対応を促している。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	共同教育の質の保証について調整が求められる点として、ロシアと日本における教育の目的、すなわち育成しようとする人材に求める資質・能力についての乖離があげられる。ロシアは座学による知識の蓄積を重視する傾向にあり、一方で日本はアクティブラーニングを結実させ、研究者としての素養をつけることに重きを置いている。そのためロシアでは授業時間数、日本では研究実績に教育の質の保証を求めるため、カリキュラムを組む際には如何に授業科目の読み替えを行っていくかが焦点となる。東北大学での博士後期課程の研究については、その活動及び成果について、何らかの単位化をおこない、その単位をモスクワ国立大学の科目に読み替えるという作業が必要になると思われる。
プログラムの実施における特筆すべき成果	ロシア専攻のない本学においてロシア留学に対する学生のモチベーションをどう上げていくかが事業開始当初からの課題とされていたが、学部1・2年生を対象とした異文化交流型の短期留学を契機に、より長期の留学を志す学生が増えている。また、本学文学研究科心理学講座とモスクワ国立大学心理学部ではこれまでも超短期学生派遣の実績があったが、既にジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリー（JSD）プログラムに関する覚書を締結し、大学院生（修士学生）レベルでの共同教育実施体制を整えた。また博士課程前期・後期一貫で実施されるJSDに関しても、本学の学位プログラム推進機構が所掌する国際共同大学院プログラム人文社会部門での実施について、現在検討が進められている。
危機管理への対策	原則として学生は全員、学研災付帯海外留学保険に加入させるようにしている。また、留学を希望する学生には危機管理セミナーを受講させている他、緊急連絡網などを収録したセーフティー・ハンドブックの配布やロシアに特化した危機管理情報を提供している。さらに渡航前チェックリストを作成し、各自チェックさせることにより渡航の心得から緊急事態への備えまで、危機管理の意識付けを促している。ロシア国内においては、万が一の事態に備え、本学が設置しているロシア代表事務所スタッフや共同ラボラトリーのスタッフが学生を支援できる体制を整えている。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	本学が取組んできた段階的教育交流プログラムのうち異文化体験型プログラムは、既存する全学教育の海外研修科目として、プレ留学型プログラムについても既存の各種短期学生交流プログラムとして本学の教育の国際化並びに学生交流プログラムを全学的に企画・実施しているグローバルラーニングセンターおよび本学のロシア交流にかかる業務を所掌するロシア交流推進室が引き続き連携して実施していく予定である。また、日露の共同研究を基盤とした大学院生の共同研究型プログラムは、本学の学位プログラム推進機構が所掌する国際共同大学院プログラムとして実施される予定である。

4. プラットフォーム構築事業への要望等

本事業を推進するにあたり、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

--